

2017年8月号

横須賀小川町教会新聞No.139
2017年8月1日発行

小川町の鐘

発行者 日本キリスト教団
横須賀小川町教会
牧師 寺田信一
住所 横須賀市小川町7
電話 046-822-2463
http://ogawacho-church.sakura.ne.jp

第33回

マザーのスピーチ

牧師 寺田 信 一

本名をアグネサ/アンティゴナ・ゴンジャ・ボヤジという修道女がいました。恐らく、このひとは別名の「マザー・テレサ」という名のほうが良く知られていることでしょう。本稿では親しみを込めてこの「マザー」という表記を遣わせて頂きます。

さて、間もなく、マザーが亡くなってから20年が経ちます(享年 87)。マザーが何で知られているかと言って、40歳の時に「飢えたひと、裸のひと、家の無いひと、体の不自由なひと、病気のひと、必要とされることのないすべてのひと、愛されていないひと、誰からも世話されないひとのために働く」という目的を掲げて、ローマ・カトリック教会の修道会「神の愛の宣教者会」を設立したことであります。そして、その目的通りに生き抜いたことが多くの人々に感銘を与え、幾人もの人びとの人生に大きな影響を与えました。そのエピソードは枚挙に暇がありませんが、今号ではそのスピーチを紹介します。

マザーは生前、数多くの賞を受けましたが、最初の表彰は1962年、インド政府とインド初代大統領ラジェンドラ・プロサド氏から贈られた国内最高の栄誉とされる「パドマ・シュリ」(Padma Shri) という勲章でした。マザーは最初、この受章に躊躇い、大司教に「私は授与式に行かないほうが良いと思います」と相談します。すると大司教は「その勲章は、あなたを通して貧しい人々に奉仕するすべての修道女に与えられるものだから、ぜひ行きなさい」と勧めました。そこでマザーは「受賞を辞退するのではなく、寧ろその栄誉が個人を素通りしてしまうほど、自分が透明になっていなければならないのだ」と思い至ります。そして受章者のスピーチの中で「私は授章式の中心人物ではありません。キリストが私を使って、そこにいる人々皆を一つになさるのです」と述べました。信仰者の鑑のようなスピーチですね。

マザーはその後、数多くの授章式で講演もするようになりますが、一度も下書きを用意しなかったそうです。祈りながら待ち、話す時も(目立たないように)親指で十字を切ってから語りました。

1973年、マザーはロンドンでtemplton賞を授与されます。これは、マザーの働きが宗教間の最も面倒な壁を突破したという評価を受けたからですが、やはり授与式の講演で次のように述べています、「私にこの賞をくださるということは、取りも直さず、世界中で私と共に愛の業に加わっているすべての人た



ちにくださることで、私たちにはキリストは見えませんから、私たちの愛をキリストに言い表すことはできません。でも隣人なら見えます。だからキリストにして差し上げたいと願っていることを隣人にしてあげることが出来ます。神が私たちをお使いになれるように神に心を開きましょう。愛を行為に表しましょう」と。そして副賞として与えられた多額の賞金をすべて救済事業に充て、自分の隣人のために遣ったのでした。

その後、1979年にはついにノーベル平和賞が与えられるのですが、マザーはその授賞式の際も、普段と同じく白い木綿のサリーと皮製のサンダルという身なりで出席します。そして授賞式の間において「私のための晩餐会は不要です。その費用はどうか貧しい人々のためにお使い下さい」と要望しました。また、賞金19万2000ドルを受け取った時には「このお金でいくつのパンが買えますか?」と尋ね、そのすべてがコルカタの貧しい人々のために遣われることにしたのです。

何と云うか、頭が下がりますね。見事としか言いようがありません。このようなマザーに私同様やはり感銘を受けたあるインタビュアーが、ある日「世界平和のために私たちはどんなことをしたらいいですか?」と尋ねました。するとマザーは「家に帰って家族を愛してあげてください」と答えたそうです。実にシンプル。きっと、愛に生きるということは、大きな福祉事業をすることだけを言うのではないのです。今、自分に与えられている隣人を大事にすること、そしてその隣人を与えてくださった神に感謝することを言うのでしよう。



ごあんない

教会学校礼拝

毎週日曜日午前九時、子どもの礼拝があります。礼拝後、幼小科・中高科・成人科に分かれて分級が行われます。

主日礼拝

毎週日曜日 午前10時30分

※毎週日曜日 礼拝後 説教ガイド

Aコース(既に洗礼を受けた方対象)

Bコース(まだ洗礼を受けていない方対象)

特別説教礼拝

八月二〇日(日)午前10時半

「十字架の言葉は神の力」

説教 武田英夫教師

特別説教礼拝

九月一七日(日)午前10時半

説教 王文明(ワン・アイミン) 教授

公開講演会

九月一七日(日)午後三時

講演 「中国のキリスト教はどこへ行くのか」
講師 王文明(ワン・アイミン) 教授



教会にはエレベーターが設置されています。また、多機能トイレも整備されています。視覚障害の方には、点字の聖書と讃美歌が用意されています。